



大越塾長（右）とカラオケを楽しむ塾生たち

# ダルボイ・アカデミー 塾生「体も心も元気」

## 弟子屈に 移転3カ月 観光農園開設など力

【弟子屈】不登校や引きこもりで悩んでいる若者を受け入れる総合塾「ダルボイ・アカデミー」（大越俊夫塾長）が、屈斜路湖畔の町サワラチサップに北海道キャンパスを開設し、神戸市から本拠地を移してから3カ月がたった。同キャンパスで生活する塾生たちは元気を取り戻し「自分の食いぶちは自分で稼ぐ」をモットーに、観光農園の開設など、さらなる高みを目指している。

（水谷友路）

同アカデミーの前身は、大越塾長が「特別な素質を持った不登校生たちを、絶対につぶしてはならない」と1975年に開塾した「師友塾」。大越塾長の教え子が継承する形で2015年、NPO法人ダルボイ・アカデミー（金井祐真代表理事）が開設された。

大越塾長は約30年間、夏に屈斜路湖で釣りを中心とした長期合宿を続けており、この合宿で元気になる塾生たちを見て「いっその場所にキャンパスを造ろう」と昨年10月23日に、仁伏温泉の「屈斜路湖荘」の一角を借りて北海道キャンパスを開設した。

従来の神戸キャンパスは主に中高生が在籍する学校の代わりに通い、悩みから立ち直ることを目的とする。その後、全寮制の北海道キャンパスに合流し、高卒認定や資格取得などを目指す。現在、北海道キャンパスには開設に合わせて移住した中学、大学生7人が在籍している。

同アカデミーの特長は、「自分の食いぶちは自分で稼ぐ」ことを目的に、同法人の系列会社として、英語塾やカフェなど、卒業後の就職先が用意されていること。その一つで、北海道をテーマにした神戸市のカフェ「BB SHEEP C

OFFEE」の移動販売車が、昨年8月から弟子屈を拠点に道東各地でコーヒーなどを販売している。さらに、川湯駅前6月にブルーベリー観光農園「BBファーム」がオープンする予定だ。運営は卒業生が担い、塾生も業務を手伝う。そして、将来はカフェの2号店や野菜農園なども展開し、元不登校生が希望を持って働きながら訪れる人に癒やしや元気を与え、まちづくりに貢献する「セラービータウン」を構築する。

きょうだいで入塾し、調理解師を目指しているという篠原颯爽さん（22）さんは「キャンパスは、まだ内部が未完成だが、造る側としてやりがいがある。一人前の社会人になりたい」と意気込む。弟で通信制の大学に通う祐翔さん（19）は「冬でもウインタースポーツや釣りが楽しめ、体が元気になり、心も元気になれる」と笑顔。同キャンパスで唯一の中学生砂川啓人さん（14）は「不登校時代は昼夜逆転の生活を送っていたが、ここでの共同生活で改善した。自分に合っている環境だ」と話していた。

釧路市、釧路町、厚岸町、浜中町、標茶町、弟子屈町、鶴居村、白糠町、根室市、別海町、中標津町、標津町、羅臼町

# 新釧路

SENSHIN